

今月の ひとこと

「とにかく全世界の株式インデックス・ファンドをリタイアするまで積立投資をしない。絶対に止めてはいけません」というようなことを私はいつも言っています。ある時、そんな話をできる限りわかりやすく長時間にわたってお話しました。みなさん、熱心にメモをとっています。そして、講演が終了し、質疑応答の時間になりました。最初の方が少しおずおずと手を挙げました。そして、こんな質問をされたのです。「それで私はまず何をしたらいいのでしょうか」と。要するに長旅の車で切符を買って座席に座って、景色を楽しみ、終点まで決して途中で降りてはいけませんよ」と私は言っていたのですが、その方はどこに行けば汽車にのれるのかわからなかったのです。地下鉄や電車の駅もある、バス停もある。飛行場だってある。一体、私はどこに行けばその汽車に乗れるのですかという実にもっともな質問です。退職後のために何かしなければならぬと思う人が増えているのは実感します。でもなかなか資産形成に一步を踏み出せない人が多い。その背景には教える側の目線がまだまだ高すぎることもあるのかも知れません。反省しました。

+++++
次のような勉強会・講演会を企画しています。東京m (6/17) 富山* (6/23)、金沢* (6/24)、東京m (7/15)、仙台* (7/28)、秋田* (7/29)、東京k (8/02)、東京m&k (8/19)、東京k (8/22、23) 札幌* (8/26)、東京m (9/16) 福島* (9/22) の予定です。

*: 主な内容は①アメリカに学ぶ老後資産対策 (アメリカの投資教育NPOの動画を紹介し)、②100歳までのお金との付き合い方です。その他についての詳細は当社までお問い合わせください。m: マンスリー・セミナー k: 子供向け、m&k: 大人と子供のためのハッピー・マネー@教室+++++
+++++
FACEBOOK上でクラブ・インベストラライフの仲間が活発な議論をしています。FACEBOOKに登録している方、ぜひ、ご参加ください (2018年6月11日現在で参加者数は3626名です)

100歳人生のお金との付き合い方 (金融庁主催「つみたてNISAフェスティバル2018」基調講話全文)

岡本 和久



私は以前、100歳までの長期投資という本を書かせていただきました。最近盛んに100年人生みたいな話を耳にしますが、私がこの本を出したのが、2007年で今から11年前なので、「やっと時代が追いついてきたな」と、実はほくそ笑んでいます。もっともこの本では人生100年であってもお金に困らないためにどうしたらよいかと書きました。今日は、少し視点を変えて100年間の人生を通じてのお金の話、それぞれのステージでどんな風にお金と付き合い合ったらいいのか、そんな話をこの意義あるイベントの冒頭で伝えることができたいと思っています。

[読んでみる](#)

I-OWAマンスリー・セミナー講演より 渋沢 健氏、渋沢 健氏、勝池 和夫氏とのフリーディスカッション

渋沢 健氏、勝池 和夫氏、参加者のみなさま レポーター: 赤堀 薫里

渋沢: 僕はまだAIは想像ではなくて、莫大なデータからの分析の答えだと思っています。だから、不完全な情報から出た答えではないと思います。人間は不完全で断片的な情報を持っているにも関わらず毎日答えを出します。

[読んでみる](#)

クラブ・インベストラライフとは?

人生を通じての長期投資は孤独な長旅です。この長旅に耐え、大きな喜びを得るには、資産運用を行うための基礎となる知識と孤独な旅を支えあう仲間が必要です。「将来の自分はいまの自分が支える」ほかない時代、クラブ・インベストラライフの活動は、豊かで幸せな人生のための投資を目指しています。

毎月、ネット上で会報誌を公開するほか、FACEBOOKやTwitter上で議論の場を提供し、各地でのセミナーを開催しています。

まったく投資の経験のない方も多数、参加しておられます。大手金融機関から完全に独立しているので、特定の商品をお勧めすることも販売することは一切ありません。

<FACEBOOK、TWITTERへの 投稿の際のお願い>

1. 個別商品の販売・推奨、あるいはそれに類する投稿はご遠慮ください
2. 発言はあくまで個人としてのものとしてください
3. 企業広告はご遠慮ください

I-Oウェルス・アドバイザーズの メール・マガジン

メルマガへのご登録は下記のメールアドレス宛に、空メールを送信下さい。購読は無料です。

mag@i-owa.com

毎月15日配信 無料

Facebook

Facebook上のグループ、クラブインベストラライフ
<http://www.facebook.com/groups/investlife/>

Facebookへの登録が必要です。リクエストボタンを押して入会申し込みをしてください。

[Facebookへはこちらをクリック](#)

Twitter上のグループ
クラブインベストラライフ
http://twitter.com/c_investlife

Twitterへの登録が必要です

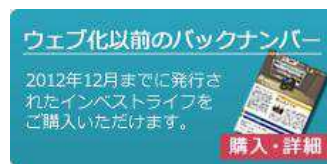
[@c_investlifeさんをフォロー](#)

バックナンバー | 一覧

- 2018年05月15日発行 Vol.185
- 2018年04月16日発行 Vol.184



- [2018年03月15日発行 Vol.183](#)
- [2018年02月15日発行 Vol.182](#)
- [2018年01月15日発行 Vol.181](#)
- [2017年12月15日発行 Vol.180](#)
- [2017年11月15日発行 Vol.179](#)



I-OWAマンスリー・セミナー講演より アメリカ西海岸訪問レポート

講演： 岡本 和久 レポーター： 赤堀 薫里



3月末から4月の始めにかけてロサンジェルスに出張し、CFA協会主催の「Wealth Management Conference」に出席しました。ロボアドバイザーに依存した運用会社に聞くべきこと、高齢化に対応したポートフォリオ最適化の考え方など興味深い話を聞きました。

[読んでみる](#)

知って得する、ちょっと差がつく トリビア・コーナー

トリビア研究家 末崎 孝幸氏

★カチューシャ（は日本独自の呼称） ★松下村塾（の由来） ★潮時（しおどき） ★ドミニカ共和国とドミニカ国 ★伯仲 ★伯方の塩（の原料は海外産） ★米国の大統領選挙はなぜ11月の火曜日なのか

[読んでみる](#)

資産運用こぼれ話 ウーバー初乗り体験記

寄稿： 岡本 和久



3月末から4月の始めにかけてロサンジェルスとサンフランシスコに出張してきました。到着後、知り合いがまず勧めてくれたのがウーバーのアプリをダウンロードすることでした。早速、実行。そして、名前（ニックネーム）、メールアドレス、電話番号、そして代金支払のためのクレジットカード情報などを入力。あとは必要なときにアプリを立ち上げ行先の住所を入力。私の居場所はGPSで自動入力されていました。

[読んでみる](#)

参考データ・コーナー

基本ポートフォリオのパフォーマンス

データ提供：イボットソン・アソシエイツ・ジャパン/投信まとなび

5月は4資産成長型が-0.93%、2資産成長型が-1.21%のパフォーマンスでした。世界各地のパフォーマンスは <https://www.ibbotson.co.jp/market/> でご覧いただけます。

[読んでみる](#)

投信データ・ウォッチ

データ提供：イボットソン・アソシエイツ・ジャパン/投信まとなび

今月は直販投信の比較をしていただきました。純資産ランキングは①さわかみファンド、②セゾン・バンガード・グローバルバランスファンド、③ひふみ投信でした。

[読んでみる](#)

岡本和久のI-OWA日記

★熊本で久しぶりの講演 ★御園座で「ワンピース」 ★お伊勢参り ★第152回マンスリー・セミナーが開催されました ★5月20日はI-OWAの13歳誕生日 ★マーケット・アングルに出演 ★大阪で子供への金銭教育を行う方々とランチ ★久しぶりに大阪で単独講演

[詳細はこちらをご覧ください。](#)

セミナー案内

6月17日(日) 12:30～16:30 東京 I-OWAマンスリー・セミナー(153回) ■会場:東京都渋谷区広尾1-8-6-7F(当社オフィス) <http://www.i-owa.com/company/access.html> ■プログラム: 12:30～13:30 「東インド会社に学ぶ株式会社の本質」(岡本 和久) 13:40～14:40: 「日米最近の投資信託事情」(イボットソン・アソシエイツ・ジャパン株式会社「投資信託事情」発行人・編集長、島田 知保氏) 14:45～15:30: フリー・ディスカッション、 15:30～16:30: 懇談会、 スポット受講料: 教室での受講は10000円+税 予約必須、 動画での受講は5000円+税 ■お申込み、お問合せ: info@i-owa.com ———

6月23日(土) 14:00～16:00 (開場: 13:30) 富山 I-OWA/インベストラティブ勉強会 ■会場: タワー111ビル 2階: 会議室2 富山県富山市牛島新町5-5 ■プログラム: ① アメリカに学ぶ老後資金対策(60分) 休憩: 15分 ② 100歳までのお金との付き合い方(60分) 休憩: 15分 ③ 質疑応答(30分) ■参加費等: 参加費 2,000円(税込) 定員 30人(先着順) 勉強会終了後に懇親会があります 懇親会費 4,000円前後(実費)(税込) ■お申込み: 横山純子様 yokojuun@gmail.com こくちーず <https://kokucheese.com/event/index/516725/> ———

6月24日(日) 14:00～16:00 (開場: 13:30) 金沢 I-OWA/インベストラティブ勉強会 ■会場: 金沢市北安江町3-2-20 金沢勤労者プラザ ■プログラム: ① アメリカに学ぶ老後資金対策(60分) 休憩: 15分 ② 100歳までのお金との付き合い方(60分) 休憩: 15分 ③ 質疑応答(30分) ■参加費等: 参加費 2,000円(税込) 定員 40人(先着順) 勉強会終了後に懇親会があります ■お申込み: 谷崎由美様 Taniyumi2000@gmail.com こくちーず <https://kokucheese.com/event/index/519086/> ———

7月15日(日) 12:30～16:30 東京 I-OWAマンスリー・セミナー(154回) ■会場:東京都渋谷区広尾1-8-6-7F(当社オフィス) <http://www.i-owa.com/company/access.html> ■プログラム: 12:30～13:30 「資産引出の簡単な考え方(仮)」(岡本 和久) 13:40～14:40: 「つみたてNISAを活用しよう(仮)」(金融庁 総務企画局政策課総合政策室 金融税制調査官 今井 利友氏) 14:45～15:30: フリー・ディスカッション、 15:30～16:30: 懇談会、 スポット受講料: 教室での受講は10000円+税 予約必須、 動画での受講は5000円+税 ■お申込み、お問合せ: info@i-owa.com ———

7月28日(土) 13:30～16:30 仙台 I-OWA/インベストラティブ勉強会 ■会場: 仙台市青葉区中央1丁目3-1 アエル28階 エル・ソーラ仙台(AER 28階) ■プログラム: ① アメリカに学ぶ老後資金対策(60分) 休憩: 15分 ② 100歳までのお金との付き合い方(60分) 休憩: 15分 ③ 質疑応答(30分) ■参加費等: 7月13日まで 1500円 7月14日～27日 2000円 7月28日(当日) 2500円 定員: 30名 ■お申込み: PEATIX <https://i-owaseminar.peatix.com/view> メールで■お申込みの場合は kenichi-4667@jcom.home.ne.jp (村越願様、メールでの■お申込み期限は7月13日まで) ■懇親会等: 講演会終了後、講演者を交えて懇親夕食会(参加費: 5000円程度)を予定しています。ご希望の方は7月13日までに村越様の右記アドレスまでご連絡ください。 ———

7月29日(日) 13:00～16:00 秋田 I-OWA/インベストラティブ勉強会 ■会場: 秋田市文化会館 4F 第五会議室 住所: 秋田市山王7丁目3-1 ■プログラム: ① アメリカに学ぶ老後資金対策(60分) 休憩: 15分 ② 100歳までのお金との付き合い方(60分) 休憩: 15分 ③ 質疑応答(30分) ■参加費等: 参加費: 2000円 定員: 60名 ■お申込み: セミナーお申込URL (PEATIX) <http://i-owaseminar2018akita.peatix.com/> ■懇親会等: 終了後、希望者による懇親会(15名)があります。場所: 「比内や」 時間: 18:00～20:00 費用: ￥4,000(前後) 懇親会の申込は土井様まで ⇒hdoi@okanegakkou.com ———

8月2日(木) 9:30～12:00 東京 金融庁主催 つみたてNISA Meetup × 霞が関子ども見学デー ■会場: 東京都千代田区霞が関3丁目2-1 中央合同庁舎第7号館 金融庁 15F 会見室 ■プログラム: 9:30～9:35 金融庁 あいさつ 9:35～10:25 ハッピー・マネー講座(講師: 岡本和久氏) 10:40～11:30 ワークショップ・発表 11:40～12:00 金融庁ツアー 対象: 小学1～3年生のお子様と、保護者の皆様 30名(先着順) お問合せ: 金融庁 Tel: 03-3506-6000(代表) 総務企画局政策課広報室(内線3125) ———

8月4日(土) 10:00～16:30 (開場9:30) 東京 鉄人寄席 ■会場: ヒューリックカンファレス 3階 Room3 東京都台東区浅草橋1-22-16 ■プログラム: 【演目1】 10:00～11:00 「幸せになる経済学」 大江英樹 【演目2】 11:05～12:05 「お金と心 200%の人生き方」 岡本和久 ランチタイム 【演目3】 12:45～13:45 「ビジネスパーソンのための『新お金管理術』」 竹川 美奈子 【演目4】 13:50～14:50 「みんなで良くする投資業界」 馬淵治好 ★ 15:10～16:30 「大喜利」(四人のトークセッション) ■参加費等: 1万円(お弁当付き) 定員: 50名 ■お申込み: 参加お申込みサイト: こくちーずプロ(準備中) ■懇親会等: 終了後に懇親会があります。自由参加で、ご希望方はセミナー申し込みと併せて、上記サイトからお申し込みください(参加費は4,000円) ———

8月19日(日) 13:30～16:30 東京 「大人と子どものためのハッピー・マネー@教室」(I-OWAマンスリー・セミナー155回) ■会場: 東京八重洲ホール 2階 201会議室 TEL03-3201-3631 東京都中央区日本橋3-4-13 新第一ビル(東京駅八重洲中央より徒歩約3分) ■プログラム: 第一部 「キャサリンとナンシーのおかねのおはなし」 講師: 竹内かおりさん、西岡奈美さん 第二部 「ハッピー・マネー@四分法」をまなぼう 講師: 岡本和久、Labi(歌) 第三部 タニユミのライフ・プラン入門 講師: 谷崎由美さん(この時間お子様はワークショップをしていただきます) 第四部 お子様による発表会 ■参加費等: マンスリー・セミナー会員様(教室・ネット)およびご同行のお子様: 無料 会員様以外の大人: 1000円、お子様(高校生以下): 500円 定員: 50名 今回は対象を小学生にさせていただきます。なお、小学生と同行の場合、それ以下、または中学生も参加費500円でご参加いただけます。また、高校生以上は大人として参加していただきます。 ■お申込み、お問合せ: お申込みはPEATIXからお願いします → <http://happymoney2018.peatix.com> info@i-owa.com (I-Oウェルス・アドバイザーズ) ———

8月26日(日) 13:30～16:30 札幌 I-OWA/インベストラティブ勉強会 ■会場: 札幌市北区北8条西5丁目2-3 札幌公務員受験学院ビル4F 札幌カフェ 4F イベントスペース ■プログラム: ① アメリカに学ぶ老後資金対策(60分) 休憩: 15分 ② 100歳までのお金との付き合い方(60分) 休憩: 15分 ③ 質疑応答(30分) ■参加費等: 参加費 (7月26までにお申し込みの方) ￥1,500 参加費 (7月27日～8月25日に■お申込みの方) ￥2,000 参加費 (8月26日当日ご来場の方) 定員: 60名 ■お申込み: こくちーず <https://i-owaseminarsapporo.peatix.com/view> *****

[詳細はこちらをご覧ください。](#)



100 年人生のお金との付き合い方

講演：岡本 和久

レポーター：佐藤 安彦



ただ今、ご紹介いただきました投資教育家 & ファイナンシャル・ヒーラー[®]の岡本和久です。ファイナンシャル・ヒーラー[®]と言うと怪しげな感じがするかもしれませんが、長期投資というのは、始めるのはそんなに難しいことではありません。一番難しいのは、続けることなんですね。途中で、暴落や暴騰が必ず起こって、こんなに下がったから止めようとか、こんなに儲かったからここで利益確定をしようとか、いろいろな誘惑に駆られてしまうことがあります。そのような時に本当に大事なものは、「こういう事はあるんですよ」と、ひと言かけてあげる、そういう役割の人間です。要するに、





長期投資仲間通信「インベストラ이프」

「そんなに心配しなさんな。そんなに慌てなさんな」という事を言ってあげられる、そういう存在になりたいと思い、投資家に癒しを与える人間ということで、ファイナンシャル・ヒーラー®と、10 数年前に勝手に名乗り始めて、そこからずっとそういう活動をしています。

私は以前、100 歳までの長期投資という本を書かせていただきました。最近盛んに「100 年人生」みたいな話を耳にしますが、私がこの本を出したのが、2007 年で今から 11 年前なので、「やっと時代が追いついてきたな」と、実はほくそ笑んでいます。もっともこの本では人生 100 年であってもお金に困らないためにどうしたらよいかということを書きました。今日は、少し視点を変えて 100 年間の人生を通じてのお金の話、人生のそれぞれのステージでどんな風にお金と付き合っていたらよいのか、そんな話をこの意義あるイベントの冒頭で伝えることができればと思っています。

皆さんの人生の目的はなんでしょうか。朝起きたから今日も生きているということではないですよね。では、お金持ちになるためかと言われると、皆さん決してそうだとは限らないですよね。では、偉くなって威張りたいのかというと、それも何か違いますね。究極、我々は何のために生きているのか、「しあわせ持ち」になりたいからでしょう。しあわせになりたいから生きているんですね。それが人生の目的です。別にお金持ちになるために、一生懸命働いたり、生きたりしているのではなく、しあわせになるために毎日を過ごしている訳ですよ。そこで、私は、しあわせになるための 6 つの要素という話をいつもさせていただいていますので、それを紹介いたします。

1 つ目はファイナンシャル・アセットです。お金持ちである必要はないけれど、お金もある程度は無いと困ります。2 つ目は、フィットネス。健康です。3 つ目は、ファミリー。家族です。4 つ目はフレンド、友達や交友関係です。5 つ目は、ファン。楽しみですね。最後の 6 つ目は、フィナンソロピー。社会貢献です。全て「フ」から始まるので、「富」という字をあてて、「6 つの富」と言っています。できるだけ、この六角形のバランスが取れていて、外側に大きく広がっている方が人間は幸せであろうと、そんな風に私は考えています。

人生 100 年、私は大きく 3 つのステージに分かれると思っています。学びの時代、働きの時代、そして、遊びの時代です。学びの時代というのは、生まれてから食べることや歩くことを覚え、学校に行き、就職をしても最初の 5~10 年くらいは先輩や上司からいろいろな事を学んでいきます。この時期に何をするかというと、人的資産を形成していく時期です。そして、次の働きの時代に入ってくると、形成した人的資産を活用して、それを金融資産に変えていくんですね。要するに、働いてお金を稼いで、金融資産の形成をしていく時代になります。そして最後の遊びの時代に入っていきます。遊びと言っても、家でゴロゴロしたり銀座で豪遊したりとかではなく、自分が一番やりたい事をやっていると、それが世の中の役に立って、誰かのためになって、みんなに喜ばれる。これが本当の遊びです。この時代は、それまでに形成した金融資産を活用しながら、生き様を形成していくこととなります。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

今日お越しの皆さんの中には、すでに遊びの時代に入っている方もいるかと思いますが、「あのじいさん格好いいな」とか、「ああいうおばあちゃんに私もなりたい」と思われるような存在になる。生き様を見せてあげる、ロールモデルを見せてあげる。それで、それがどういう風に活用されるかですが、実は、次の世代の人的資産の形成に役立っていくんですね。こう考えると人生は面白いものです。人的資産から金融資産、金融資産から生き様と変化するんですね。それぞれ形成と活用を繰り返して行って、ずっと世代を超えて繋がっていくことになる訳です。

<学びの時代のお金との付き合い方>

さて、最初に学びの時代でのお金との付き合い方をお話しします。これが一番基本的な部分で、最重要です。お金ってどうして大事なのでしょう。お金が無いと何にもできません。何も買えません。でも、大金持ちになっても、無人島で一人で暮らしていたら、お金にはほとんど意味がありません。そうすると、お金は、結局、自分の欲しい物と交換できるから価値があるんですね。交換によって、満足感や幸福感を得ることができるから、自分の持っている大切なお金を相手に渡してあげるんですね。お金を一言で表すとしたら、それは「感謝のしるし」だと、私は思っています。お金のイメージってあまり良くないのですが、全てお金は感謝のしるしだということから、改めて全体を構築し直してみると、ずいぶんイメージと違う姿が見えてくると思います。

次に、働くってどういうことでしょうか。働いてお金を稼ぐにはどうしたらよいのか。それは人に感謝される事をすればいいんだと思います。六つの富でいえば、働くということは、社会貢献であり、同時に自分にとっての楽しみであり、みんなから感謝されてお金が入ってくる、これが働くということです。仕事というのは、仕える事と書きます。仕えるというのは、自分より上位のものに奉仕することです。では我々にとって、上位とは何でしょうか。それは世の中です。世間だと思います。世の中にとって良い事をする、その結果としてみんなから感謝されてお金が集まってくる、それが自分にとっての喜びであるのです。そして、そうして集まったお金をどうやって使っていくか、これが金使いの王道なんです。私が提唱する、「ハッピーマネー[®]4分法」という考えになっていきます。

今日は、ブタさんの形の貯金箱を持ってきました。このアメリカ生まれのブタさん、ピギーちゃんという名前です。普通の貯金箱は、お金を入れる穴が1つですが、これは、背中に4つの穴があり、胴体も4つの部屋に分かれていて、それぞれの部屋が4本の脚に続いています。この4つの部屋は、SAVE(ためる、貯蓄)、SPEND(つかう、消費)、DONATE(ゆずる、寄付)、INVEST(ふやす、投資)と名付けられています。これはアメリカでは、3歳の子供から使っている教育玩具です。アメリカの子供たちはお小遣いをもらって、今月はどれくらい「つかう」に入れようか、とか、どれくらい「ためる」に入れようかな、などと考えるようになりますね。お金の使い道について考えるトレーニングになると思います。そういう教材です。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

これにどんな効果があるかという、「つかう」というのは、今の自分が喜ぶためなんですね。そして、「ためる」というのは、少しだけ先の自分が喜ぶため。お金を今、使いたいのをがまんして貯めてゆき、大きなものを買うと、より喜びが増しますね。「ゆずる」は、自分が喜ぶだけでなく困っている人も喜ぶ。そして、世の中のためになる。最後に「ふやす」です。いま自分が必要としないお金を、いまお金を必要としている人や会社に使わせてあげる。そしてその人がそのお金を使ってビジネスの種を撒いて、それがみんなに喜ばれるよう

な、世の中の役に立つような会社に育ち、みんなから感謝されてお金が集まってくる。その集まってきたお金の一部分が、ずっと将来の自分の元に戻ってくる。これが「ふやす」ということです。



お金はこうやって増えるんですね。投資というのは 1,000 円で買った株が 1,100 円に値上がりして儲かったではないんです。投資というのは、お金を払って保有した資産が付加価値を生み出し、その結果としてお金が増えていくんですね。大企業、トヨタ自動車であれ、パナソニックであれ、大きな企業のほとんどが、こういった所から始まっていったんですね。子供たちにもそれを教えていかないといけない。大人の方にもそれを知っていただきたいと思います。ですから、株価の動きというのは、マイナーな表面的な問題なんですね。表面の波のようなものです。本当に重要なのは、お金が世の中で、ぐるっと回って使われているのを知ることなんです。表面の荒波ではなく、深海の潮流に資金を投ずるのが投資です。そのためには意識の空間軸と時間軸を拡大することがカギです。

お金と投資を通じて学べることは、お金のご縁で、世界中のいろいろな人とつながっていることがわかります。コートジボワールなどの暑い国では、子供が一生懸命カカオの実を採っています。それが次々と加工されて、それが我々の手元に1枚 100 円ちょっとの板チョコになっていますね。お金がこういうご縁の繋がりを可能にしているんですね。

それから、投資というのは、基本的に時間の使い方です。時間をどう使うか、これはどう生きるかということになると思います。お金と投資のことを深く考え、深く勉強をしていくと、我々、ご縁のネットワークの中でどうやって生きていったらよいのか、そういう事に気が付くようになると思います。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

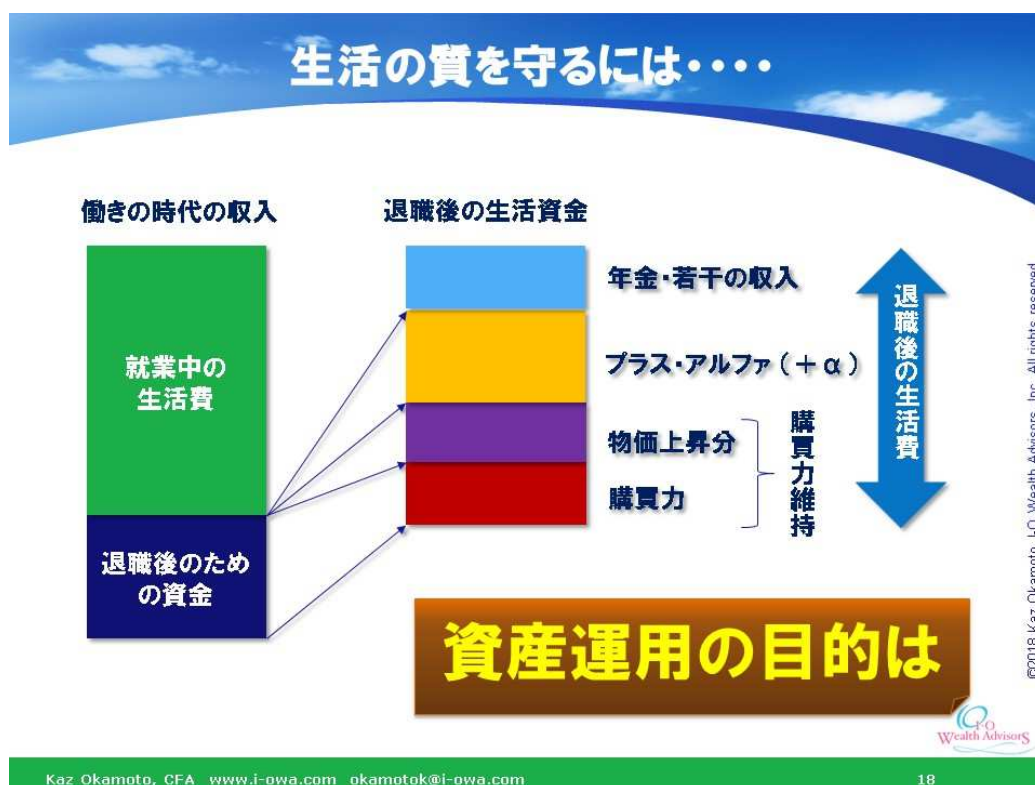
＜働きの時代のお金との付き合い方＞

働くということも同じです。自分のためだけに働くのではなく、会社のためにも働いているし、同時にお客様のためにも働いている。そしてそれが世の中のためになる。近江商人の三方よし、「売り手よし、買い手よし、世間よし」の、世間のところまでいくこと。働くというのはそういうことなんですね。世の中をみんなで良くするためにみんなで働いて、みんなに感謝されて、そしてお金が自分の所に入ってくる。これが仕事ですね。

働きの時代のお金とどう付き合うか。最も大切な事は、「将来の自分は今の自分が支える」ということです。「いま貰っている給料は、今の生活費の分だけではないですよ。今の生活費と退職後の生活費の両方合わせたものが、今の給料です」と言うとみなさん、びっくりします。当たり前の事なのですが、これを言うとショックを受ける方もいます。昔のように、年金がたっぷり出ていた時代であれば、こういう事は考えなくてよかったのですが、これからの時代を考えると、やはり将来の自分は、今の自分が支えるより仕方がないですね。

投資というと抵抗感を持つ人も多いと思います。すごく短い間に売ったり買ったり、少ない銘柄を売ったり買ったり。これは投機なんです。でも、短期の個別銘柄投資をしていたところに、いろいろな分析を加え、分散投資を検討し、そして自分の全資産をどうやって管理していくかという資産運用に繋がっていく、これが、時間と空間の軸が拡大されたものになっていくということです。

退職後の最大のリスクは、生活の質の大幅な引き下げです。幸福感が大幅に無くなってしまうことです。これが最大のリスクですね。今、働きの時代である一定の収入があるとします。緑の部分で今の生活をして、青の部分は将来のためにそのお金を取っておくとします。そのお金を使うのは、30～40年後、もしかしたら50年後かもしれません。それだけの期間をかけると、やはり物価は上昇します。物価の上昇を考えると、実質的には緑の部分が急に赤のようになってしまいます。物価が上昇するのでお金の価値が減ってしまうのです。これはかなりキツイと思います。せめて物価上昇並みくらいに、増やしていったらどうか、価値は保存されて購買力は維持できますよね。ただし、緑で生活していたものは、半分くらいになってしまう。これも寂しいですね。こうならないためには、物価上昇＋αくらいの利回りで増やしていきたいですね。それに、若干の年金やアルバイトや、どこかのアドバイザーになるなどの仕事をして収入を得ることができれば、退職後も生活水準をそれほど落とさなくても暮らしていくことができるわけです。これでハッキリと分かる事は、資産運用の目的とはなにかと言うと、私は、「購買力の維持＋α」だと思います。購買力を維持するだけではちょっと足りない。だからそれに＋αが必要なのです。



皆さんは銀行に預金されていると思います。では、銀行預金は、いざという時のためにどれくらい必要か。これに対して、1年という人もいますが、これをやろうとするとなかなか大変です。月 30 万円稼いでいる人が、月々 3 万円貯めたとして、360 万円になるには 10 年掛かってしまいます。その間、お金を増やす上で最も重要な時間という貴重な「資産」を失ってしまうことになります。時間こそ個人投資家が持っている最大の投資の武器なのです。その武器が失われてしまう。

ですから私は、銀行預金は 1ヶ月分程度でよいと思っています。1ヶ月分貯まったら、預金に回していたお金を、そのまま投資に回せばいいんです。積立投資に回せばよいのです。これをずっと、ずっと続けて、定年退職を迎えるまで、リタイアメントを迎えるまで、ずっと続けたらよいのです。できれば少しずつ積立額を増やす。そして退職する時に、退職金は全部、公社債を買う。こうすると、ほぼバランスの取れたポートフォリオになるんですね。

あとは、これを少しずつ取り崩していけばよいのです。とにかく難しいことは何にもないんですね。ただただ、ひたすら積み立てていく。30 年 40 年 50 年、積立を続ける。それだけです。「毎月いくらずつ貯めたらよいですか？」という質問を受けて、いくらですと言っても意味はないんですね。なぜかと言うと、これは皆さん次第だからです。だから、出来るだけ一生懸命働いて、出来るだけ節約して、出来るだけ投資に回す。これしかないです。最大限やってください。その結果は、皆さんが退職したあとに分かることになると思います。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

収入－投資＝支出という方程式を意識してください。それから、「退職した時にいくらあったらよいですか？」という質問もあります。3,000 万円だとか 5,000 万円だとか1億円だとか言われることがあります。これも意味ないです。そうなるかどうか、3,000 万円だと言ってみても、実現するかどうかは分からないですからね。つまり、最大限の努力をして、その結果として退職をした時に持っている資金で幸福感を最大化できるような生き方をするしか、仕方がないのです。それだけです。お金額の呪縛から開放されてください。今あるお金を最大限、幸福感に変換していけば良い。それだけのことです。

何にどう投資するのか、これは簡単です。全世界の株式インデックスファンドです。これに若い時から積立投資をして、相場に惑わされずに絶対に止めない。これが一番難しいことですがまた一番大切なことです。資産運用でも意識の拡大が必要なのです。空間軸を最大限まで広げた投資対象は、全世界のグローバルなインデックスファンドです。その上で時間軸を延ばして、長期間、積立投資をひたすら続けていく。それでマーケット変動に惑わされない。

＜遊びの時代のお金との付き合い方＞

いよいよ遊びの時代の話です。何のために働いているのかを考えてみましょう。仕事には社会貢献とお金と楽しみの要素があると言いましたね。働いているうちはお金が重要性を占めています。定年を迎えてから完全に仕事から離れる 10 年くらいは、社会貢献と楽しみとお金が 1/3 ずつくらいになります。リタイアメント後は、お金の要素はかなり小さくなって、社会貢献と楽しみが主になってくると思います。

今ある資金をどうやって取り崩していったらよいのか、これも私は極めて単純に考えています。今ある資産の時価の残高を、寿命を 100 歳までと考えて、例えば 70 歳の人であれば、30 で割れば 1 年分が計算できます。翌年は、価格が変動して残高が変わっているので、新しい時価残高を 29 で割ればよいのです。ここでも、いくらお金がないと自分は不幸になるんだというバカな考えはやめて、あるお金で最大限に幸福感を高める、それしかないですよ。で、そうしていけば、そんなに不幸な人生になりはしないです。



私がここでひとつ提案したいのは、70 歳、80 歳になったら、100 年投資を考えていただきたいという事です。「え？残り少ない人生なのに 100 年かよ」と思うかもしれませんが。要するに、自分の人生



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

が終わった後も、志を込めて応援しようと思う企業、これは個別企業になりますが、自分がこの会社を応援したいな。この会社は世の中を良くしてくれる会社だから、自分の資金で買って置いて、何世代も先まで保有して置いて貰いたい。そんな気持ちを込めて投資をしていただきたい。

その場合の銘柄選択には、成長力、技術力、人、組織、文化いろいろな観点があると思いますが、今日はあまりそれについてお話しできません。また、別の機会にお話しできればと思います。とにかく長期投資というのは、個別銘柄に対して長期投資をするのであれば、人の一生では短過ぎると思います。孫の代、ひ孫の代、更にその先。あるいは信託のスキームを使うという方法もありますし、どこかの NPO 法人に寄付をするとか、いろいろな形があると思いますが、とにかく気持ちを込めた投資をするということ。お金で思いを未来にまで届ける。良い社会を創ってくれる企業を投資で応援する。そして、寄付で「利他のリターン」を得る。そして永代投資ですね。企業と人材の育成支援、将来世代のための資金を残す。つまり、時間的な制約のない「永代」の投資です。永代投資というのは、志の投資ですよ。個別銘柄の投資というのは、志を投げる。資金に志に込めて投げる。これが「投志」です。

今日、いろいろなお話をしましたけれど、皆さん集まって、お金のことを勉強されるのはとても大事です。ただ、重要な事は、我々の目的はしあわせ持ちになることですし、そのしあわせ持ちになるために、資産の運用も上手くいくために、何が必要かと言ったら、やはり我々自身が小さな箱のなかに閉じこもっている自分というものを解放して、意識を拡げて時間軸と空間軸を大いに延ばして、広い視野で長期的な視野で物事や人生を考えるようになればいいのです。それが、しあわせ持ちへのロードマップだと思います。

ご静聴ありがとうございました。





I-OWA マンスリー・セミナー講演より 渋沢栄一の「論語と算盤」未来を拓く

講演： 渋沢 健氏

レポーター： 赤堀 薫里

渋沢 健氏プロフィール

1961 年、渋沢栄一の 5 代目子孫として誕生。1987 年、UCLA 大学 MBA 経営大学院を卒業。外資系インベストメント・バンク、ヘッジファンドなどを経て、2001 年、シブサワ・アンド・カンパニー株式会社創業。2007 年、コモンズ株式会社創業。2008 年にコモンズ投信会長となる。公益財団法人渋沢栄一記念財団非常勤理事、日本医療政策機構理事、認定 NPO 法人健康医療評価研究機構理事、日本ファンドレイジング協会理事などを務める。

渋沢栄一は銀行のことを「大きな河のようなものだ。銀行に集まってこない金は、溝に貯まっている水や、ポタポタ垂れている滴と変わりない。折角人を利し、国を富ませる能力があってもその効果は表れない」と例えました。

お金は資源ですが、それがポタポタ垂れ流し状態になっているのであれば、そこに力はない。明治、大正、昭和の経済発展は、国民のお金が一滴一滴ずつ集まり、それが流れ始め、その流れによって日本の経済発展が支えられました。日本の資本主義の原点はこのような所にあったと思います。格差を生むことを目的としていたわけではない。流れは、現在から未来に向かい、今日より良い明日に向かい、成長性がある資金の大河だと思います。その流れを作るのが銀行の役目であり、期待されていました。



お子さんに「金融とは何？」と聞かれた場合、「お金を待っている人と、お金を必要としている人をつなげるのが金融なのだよ」と説明するでしょう。その説明にもう少し加えると、現在から未来に向かって成長性のある、未来志向がある資金を社会に循環させることが金融業界の原点であると思います。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

共感すると、散らばった存在が集まる力になります。我々のお金を安心な所に預けたいという思いで銀行に集まってきます。ただし、集まっただけでは必ずしも行動に移らない場合があります。それは、強弱、濃淡、得意不得意と凸凹感があるからです。

もう一つの大切なキーワードは「共助」。「共助」とはお互いに足りないところを補い合うことです。それができれば、先ほどの凸凹感がなくなり物事が動き始めるわけです。「共感」「共助」を合わせると足し算になります。その足し算がしっかりできれば掛け算に進めます。その掛け算というのが「共創」。共に創ることができれば、新しいクリエイションを繰り返していく。これができれば掛け算の効果だと思えます。

渋沢栄一は資本主義の父と言われていますが、自分自身は資本主義という言葉は使っていません。言葉として残っているのが「合本主義」。合わせる力というイメージだと思います。

私の考えでは、資本主義の原点である合本主義は、共感によって寄り集まり、共助によりお互いを補い、今日より、より良い明日を共に創ること、共創することが合本主義ではないかと思えます。



渋沢栄一は500社くらい会社の設立に関与し、他にも大学等教育関係、病院、社会福祉施設に関与した件数は600位あるといわれ、数としては会社よりも多いと言われています。どうして、このような組織を沢山作ったのかというと、渋沢栄一の目的は、国力を高めるためだからだと思います。

だから単純にお金を集めるだけではなく、人材や国のリソースを如何に集めて、今日より良い明日に向かっての未来を作っていくのか。それが結果として、渋沢栄一が合本主義という手法にたどり着くことになったのでしょう。

渋沢栄一のトレードマークである「論語と算盤」の書籍の中で、「その経営者1人がいかに大富豪になっても、そのために社会に多数が貧困に陥ることでは、その幸福は継続されない」と言っています。稼ぐことを否定しているのではなく、自分だけのために独り占めするようなことをすると、自分自身の幸福は継続しないかもしれないという警告です。正しい道理の富でなくては、その富は完全に永続できない。だから、論語(道徳)、算盤(経済)というかけ離れたものを一致させることが今日の大切な努めなのです。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

この後講演では、「と」の持つ力と「か」の持つ力の違いについての解説。2020 年からの日本への展望についてと、21 世紀の繁栄モデルについての説明。最後に株のウチとソトについて興味深い解説をいただきました。

渋沢さんにとって高祖父にあたる渋沢栄一さんの「論語と算盤」は過去のイメージがあるように思われていますが、昔の言葉を使いながらどうやって現代において実践していくのか、未来について語ってくださいました。



I-OWA マンスリー・セミナー講演より

渋沢 健氏、勝池 和夫氏とのフリーディスカッション

渋沢 健氏、勝池 和夫氏、参加者のみなさま

レポーター：赤堀 薫里

岡本 | 私は個人的には渋沢さんの「枠」のお話が面白かったです。先月、私達の意識はすごく小さく、今の自分という小さな箱の中に入っている。その時間軸と空間軸をどれだけ大きく伸ばしていくのが大切であることをお話しました。伸ばしていくということは即ち共感ということであり、そこに共助という要素が入ります。空間軸を大きく伸ばすということは、分散投資を究極まで進めることであり、時間軸を伸ばすということは、長期投資をすること。長期分散が必要だということは、大きな原理に合致したものです。自分のためにいいことではなく、会社のためにいいこと。会社が売り手であれば、買い手にとってもいいこと、更に世間にとっていいことである三方よし。これもやはり空間軸、時間軸の拡大につながっていくわけです。

いろいろな意味で我々の意識がいかに広がっていくのか。小さいところから言えば、いつも自分のことだけではなくて、少しは人のことも考えてあげる。そのような意識が少しずつ増えていくだけでも、世の中全体が良くなってくるのではないかと思います。

その第一歩が「一日一善」。資産運用も、すごくいい勉強の材料だと思います。お金のことを勉強すればするほど、我々は空間軸でみてご縁のネットワークの中で生きていて、投資は時間をどう使うのかということだとわかってきます。時間をどう使うのかということは、どう生きるのかということ。投資やお金の勉強を続けることは、「ご縁のネットワークの中でどう生きていくのか」ということにもつながります。

参加者 | 今、AI は未来を予測というか、想像できると言われていますが、そのような情報はありますか。

渋沢 | いずれそうなるのかもしれませんが、僕はまだ AI は想像ではなくて、莫大なデータからの分析の答えだと思います。だから、不完全な情報から出た答えではないと思います。人間は不完全で断片的な情報を持っているにも関わらず毎日答えを出します。例えば、「この人はこうだ！」とか、「絶対上がる」というように。それを AI はできないでしょう。いずれそうなるかもしれませんが、今の段階ではできない。特に AI と人間の脳はエネルギーの消費量が全然違うようです。AI はプログラミンなので莫大なデータを解析することでものすごくエネルギーを消費します。しかし人間の脳は、全然エネルギーを使わないようです。そこをサポ



長期投資仲間通信「インベストラيف」

ートする電力発電のキャパが世の中にあるのか疑問です。今後のエネルギーについて処理技術が高まっていくとは思いますが、今の延長ですと、そのような議論があまりされていない気がします。

参加者 | AI が人間の能力を超えることではないですよ。怖い点は、AI が絶対できないことを人間がやらなくてはならないのに、AI ができないことの能力が、実は人間も低いということです。AI はしょせん計算機ですから。計算機というのは「0か1」の「か」の世界です。全部「0か1」に置き換えるのがシステムです。でも人間は「0と1」が共通する部分は何があるのか考えることができます。その意味を読み込むことが人間にはできるのに、AI にはできない。しかし、それを人間がだんだんできなくなっていることが問題だと、最近話題になった新井紀子さんの本に書いてありました。僕もそう思います。今日のお話の中で「と」と「か」の話がすごく印象に残りましたが、まさに「か」がAIの世界で「と」は違うと感じました。

岡本 | 渋沢さん、今日はインドや中国に造詣の深い勝池さんもいらっしゃっています。インド投信についてはどうお考えですか。

渋沢 | 僕は良いと思いますよ。中国の人口動態は少子化しているじゃないですか。インドの課題は一つの国ではないということですよね。



勝池 | インデは昨年 2700 万人の新生児が生まれています。日本は 94 万人でしょ。中位年齢がインドは 27 歳、日本は 47 歳。インドは世界で一番認知症が少ない。恐らくAIは脳の代替、ロボットは体の代替でしょう。日本は高齢化になってくるので、頭はぼけるし体も衰えるからわかります。ただ、AIにもロボットにも代替できないものは気持ち、心です。中国は体を使う。インドは頭を使う。日本は気を使う。本当にそういう意味では中国とインドは忖度なしですよ。日本はすごく忖度がありますよね。比較的中国ではアイデンティティの危機との問題があります。アメリカではネットでどんどんつながるけど、気持ちは隔離、孤立している。温かく迎えてくれるところはどこかということで、訪日外国人客が多いじゃないですか。日本に来てくれる外国人を増やす。外に住んでいても日本の精神によって作られたものを買う外国人を増やす。それで人口減少を代替する。これしか生きる道はないと思います。

渋沢 | 以前、18 年位日本に住んでいて、9 歳のお子さんがいらっしゃるインド人夫婦とご一緒しました。その時インド人の奥さんが「私、他の所に住めない」と言うのです。日本は安全だから



長期投資仲間通信「インベストラيف」

小さい子供が勝手に走って行っても気にしなくてもいい。インドやアメリカ等であれば、ちゃんと手を握っていなければ何が起こるのかわからないわけです。

勝池 | 安全な所に住んで、成長するところに投資をすればいいわけです。

岡本 | 日本は中国やインドとどう付き合っていったらいいでしょう。

勝池 | インドはスパイスの国でしょう。いろいろなスパイスを集めてマサラを作る。発想が横です。だからネットワーク系に強い。取りあえずやってみる。

日本は縦、つまり発酵です。日本酒や納豆のようにあまり混ぜない。インドはいろいろなものが集まるダイバーシティの国だから、A～Zまで説明しないとできない。でも日本人はA～Zまで全部説明しなくても類推します。インド大使館で開催する何かのセミナーの時は、膨大な資料のもと、12人が話します。聞いている方が迷惑ですよ。でも彼らはそれをしたい国なのです。だからまとまらない。発想が違いますね。

中国との付き合い方の一番の問題は日本の人口です。今は、1億2600万人ですけど、2050年にはインドは17億です。日本は1億。今、本州に住んでいる人だけでも1億数百人です。北方領土や尖閣諸島はどうなってしまうの？人がいなくなれば領土もなにもないわけですよ。そういうビジョンが全くないから、「子どもを産みましょう」と言っても響かないでしょ？日本独自のビジョンを出して共感させてやるしかないと思います。それは、もしかすると倫理的な考え方かもしれませんね。中国では倫理がやや弱いところがあります。インドはありますけどね。失われた20年と言われますが、日本は環境と治安は失われていません。中国とインドはかなり失われていますから。アメリカもそうですね。それを説明して打ち出すことでいくらかでも立ち直すチャンスはあります。



参加者 | 渋沢さんのお話で30周年周期というものがありました。現状、人口は減ってきていますね。2025年問題の後期高齢者が増えますね。製造業自体も主要な経済構造ではない。日本の2020年以降が明るくなる原動力はなんでしょうか。

渋沢 | 世代交代だと思います。過去の成功体験を持った人たちが端的に少なくなり、過去の成功体験を持っていない人達が社会の主役になるということになる。今日、お話ししたことは、過去の成功体験です。それだけの延長では豊かな未来は描けないと思います。それでは何になるのかというと、インド人の主婦が日本のことが好きだとか、今、観光客もすごいで



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

すよね。豊かな環境もあります。別に自分達の人口をガンガン増やさなくても、テクノロジーを使いながら豊かな生活を送れるモデルはあると思います。だから山奥の田舎のスポットを外国人が見つけて来てくれるわけです。もう少し日本人は自分達の国土の中にある豊かさを認識した方がいいと思います。どこに行っても食べ物は美味しいですよね。水はどこに行っても軟水で安全に飲める。

岡本 | 今どんどん減ってきている戦争体験のある人達は、行動を見ていると非常に体力も精神力も強いと思います。我々、終戦直後生まれの私のような世代がひ弱に見えるくらい強いと思います。同じように東北の震災や、九州、熊本の震災で極端な災害を受けた所から、多分 2020 年ぐらいからものすごく日本を大きくリードするような人達が生まれてくるのではないかという淡い期待と希望を持ちますね。今日もありがとうございました。



I-OWA マンスリー・セミナー講演より アメリカ西海岸訪問レポート

講演： 岡本 和久
レポーター： 赤堀 薫里

ロサンゼルスで開催された CFA 協会主催の「Wealth Management Conference」に出席してきました。最初に、シャーロット・ベイヤーさんの「ウェルス・マネジメントを紐解く、知るべきことを明らかにして人生を楽しむ」という講演がありました。

この中で面白かったことは、「ロボアドバイザー」に依存した運用会社に聞くべきこととして「①ソフトウェアを誰が開発したのですか。自社か、外部ベンダーか、②あなたが最も信頼できる投資の手法はどんなものですか、③私のデータとプライバシーを安全に守られていますか、④ソフトウェアの予測能力とユーザインターフェースをテストできますか、⑤私のパーソナリティと好みをどの様に把握するのですか、⑥私が持っている前提をどのように把握するのですか、⑦人的コストが減った場合、私はその恩恵をうけことができるのでしょうか」という 7 つをあげていたことです。

個人的なニーズをロボットがどのように取り込んで、自分にあった運用をしてくれるのか聞いているわけです。ロボアドバイザーの利用が増えるにつれ、このようなチェックポイントは大切になるでしょう。

また、AI やロボとは別な問題として、高齢化をあげていました。従来の単なるリスクとリターンのトレードオフというだけの最適化ではなくて、そこに投資家の性格や価値観、家族内の力学、税効果を全て含めて 4 つのレベルでの総合的な判断が必要になるという指摘でした。単に資産を運用するという以上に個人にとって、特に高齢者にとって、資産を如何に保全し、生かしてしていくのか、それが最終的な目的だということを彼らはアピールしようとしていると感じました。



この後、講演では、投資家のための 10 の原則中の原則についての解説。海外で急速に普及しているウーバに初乗りした体験談などをお話くださいました。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

また、映画監督や俳優として有名なデビッド・リンチさんが創設した「デビッド・リンチ基金」を訪問し、同基金が支援している意識に基づいた教育法と呼ばれる TM(超越瞑想)の学校への導入の話を聞きました。授業に瞑想を取り入れることで、精神的なストレス軽減し、学習能力も向上する効果があるとのことでした。実際にこのプログラムを実践している学校を訪れ、学生さんと一緒に「クワイエットタイム」に瞑想してきたことやその効果をお話いただきました。



知って得する、ちょっと差がつく トリビア・コーナー

トリビア研究家 末崎 孝幸

末崎 孝幸氏

1945 年生まれ。1968 年一橋大学商学部卒業、同年日興証券入社。調査部門、資産運用部門などを経て、日興アセットマネジメント執行役員（調査本部長）を務める。2004 年に退職。Facebook 上での氏のトリビア投稿は好評を博している。



カチューシャ(は日本独自の呼称)

弾力のある C 字型のプラスチックや金属で作られた髪どめのことを「カチューシャ」というが、これは日本独自の呼び方である。カチューシャの名称の由来は、トルストイの小説「復活」のヒロイン「カチューシャ」だ。大正時代の人気女優・松井須磨子が「復活」の舞台公演において、主人公のカチューシャを演じていたことがきっかけであり、その時、この髪どめをつけていたことから髪どめのことをカチューシャというようになったのである。なお、カチューシャはロシアに多い女性の名前で、エカテリーナの愛称形である。



松下村塾(の由来)

高杉晋作、桂小五郎(木戸孝允)、伊藤博文などを輩出した「松下村塾」、この塾名は吉田松陰の「松」の字から付けたと思われるかもしれないが、そうではない。この塾を始めたのは松陰の叔父である玉木文之進だ。萩の松本村にあった文之進の自宅の一隅で、天保 13 年(1842)に始めたもので、甥の寅次郎(後の吉田松陰)が塾名をそのまま譲り受けたものである。



長期投資仲間通信「インベストライフ」

塾名は「松本村」で始めた塾ということから「松下村塾」となったものである。なぜ「松本村塾」でなく、「松下村塾」になったかは明らかではないが、下は「もと」とも読めるので、「松本＝松下」となったものと推測している。

潮時(しおどき)

プロ野球選手などの引退会見などで「(体力的に)そろそろ潮時だと思いました。」などという使われ方をしているが、本来の意味からすると誤用である。

広辞苑には、(ある事をするための)ちょうどよい時期。好機。とある。本来この言葉は、漁師が漁に出るときに潮の状況を判断して、最も適したときに船を出すことから出たものである。

「物事をやめるタイミング」などというマイナスイメージではなく、むしろ前向きに「ちょうどよい頃合い」という意味で使いたいものだ。

ドミニカ共和国とドミニカ国

カリブ海にある国といえば多くの人が「キューバ」を思い浮かべるが、ここに「ドミニカ共和国」と「ドミニカ国」と二つのドミニカを称する国がある。一般的に「ドミニカ」といえば「ドミニカ共和国」のことをいい、首都はサントドミンゴ、人口 2780 万人、公用語はスペイン語である。島の西側はハイチと接している。この 5 月 1 日に中華人民共和国と国交を樹立し、中華民国(台湾)と断交を発表したことが話題となった。

一方のドミニカ国は西インド諸島の島国で(といっても領土面積はドミニカ共和国の 1.5%に過ぎない)、首都はロソー、人口 6.7 万人、公用語は英語である。コスタリカ、パナマ、ハイチ、アイスランドなどと同様、軍隊のない国家として知られる。





伯仲

内田康夫の「浅見光彦シリーズ」では弟の光彦がフリーのルポライターで探偵役。浅見家では「賢兄愚弟の法則」というのがあり、絶対真理の常識となっている。母の雪江は光彦の探偵ぶりを快く思っていない。賢兄の足を引っ張る行為であり、高級官僚を輩出し続けてきた浅見家にとって恥であると考えているからである。「賢兄愚弟」の典型のような設定である。

一方、お隣の中国では伯、仲、叔、季という兄弟の順序の呼び名がある。中でも、長男(伯)と次男(仲)の能力には大して差がないとされてきた。ここから力が接近して甲乙つけがたいことを「伯仲」というようになったのである。浅見家とは縁がなさそうだが、私のような光彦ファンには納得できる言葉かもしれない。

伯方の塩(の原料は海外産)

「伯方の塩」といえば愛媛県松山市の伯方塩業(株)が製造・販売している著名なブランド品だ。伯方の塩には「日本産」という表記があるが、原料はメキシコ、オーストラリアのものが使われている。

日本の食品表示法では、原産地は原料がとれた国、原産国は最終加工を行った国というものがあり、伯方の塩の最終加工を行っているのは日本なので、原産国は日本という表記が正しいのである。

(追記)海外の原料を使うようになったのは、昭和46年4月に「塩業近代化臨時措置法」(民間企業は日本の海水から塩を製造してはならない等、自由に塩を作ってはいけないという法律)が成立し、塩の製法がイオン交換膜製塩法という化学的に作る製法に全面的に変わったことによる(それまでの流下式塩田製法は全廃された)。ただし、平成9年4月の塩事業法の制定で、現在では国内で自由に塩を作れるようになっている。

米国の大統領選挙はなぜ11月の火曜日なのか

米大統領選挙は170年以上前の法律によって「第1月曜日の翌日の火曜日」と定められている。法律が定められた当時、米国の投票所は都市部にしかなかったのが、広大なアメリカでは農民の投票には時間がかかっていた。農民によっては、投票は1泊2日を要する作業だったのである。また、日曜日は多くの人が教会に行くので火曜日が好都合になる。そして11月は秋の収穫が終わり、冬の雪による交通事情の悪化前の好タイミングでもある。こうした辺鄙な農民の事情を考慮し火曜日を投票日にしたのである。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

なお、インディアナ州、デラウェア州など州によっては投票日を休日にして投票率を上げるようにしているという。



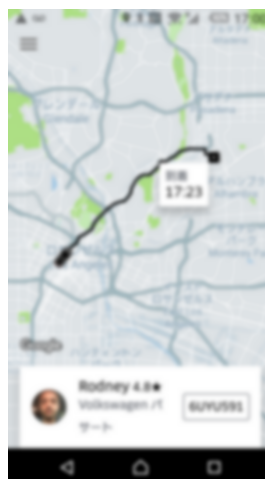
資産運用こぼれ話 ウーバー初乗り体験記

寄稿：岡本 和久

3月末から4月の始めにかけてロサンジェルスとサンフランシスコに出張してきました。到着後、知り合いがまず勧めてくれたのがウーバーのアプリをダウンロードすることでした。早速、実行。そして、名前（ニックネーム）、メールアドレス、電話番号、そして代金支払のためのクレジットカード情報などを入力。あとは必要なときにアプリを立ち上げ行先の住所を入力。私の居場所はGPSで自動入力されていました。

画面上では小さな黒い車の絵がわんさとあります。こんなにウーバーに登録している車があるのかと驚きます。候補の運転手が表示されます。運転手のウーバー歴、これまでの送迎実績回数、乗客による格付けなどがわかります。その運転手で良ければOKを押し、しばらくするとアプリに表示されたナンバーの車が到着。何度も使いましたが大体、5分以内で来ました。

運転手さんが私のニックネームを聞くのでYesと言って乗ると、あとは何の話もせず、行先を指示する必要もありません。料金も事前に入力されていました。



そして目的地に着いたらあとは黙って降りるだけ。しばらくするとメールで領収書が送られてきて、チップの選択肢が表示されるのでそのうちの一つを指定、そして運転手さんの評価



長期投資仲間通信「インベストラيف」

の★を選びます。運転手さんも乗客の評価をする相互評価です。車も普通のタクシーよりはきれいな感じでした。

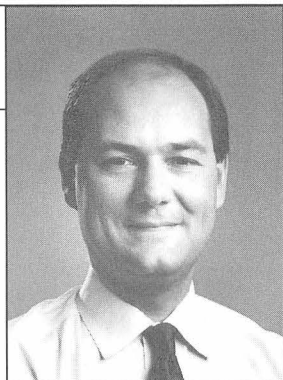
タクシーのように配車の料金もなく、最初から料金が決まっているので知らない土地で遠回りをされたり、ドライバーがなかなかメーターを倒さないなどの不安ありません。私の体験した限り、日本語での表示も問題ありませんでした。

運転手にとっても最初から行先がわかっているし、自分のやりたい時だけ仕事ができるメリットがあります。例えば自宅から最寄りの電車の駅まで自分の車で行く途中で、駅まで行きたい人から依頼があればちょっとしたバイトもできるわけです。そして、何よりも乗客と運転手の相互評価である程度、相手の信頼度がわかるということもあります。完璧ではないかもしれませんがこれは普通のタクシーではありえないことです。

超繁華な観光地では車を見つけにくいなどの問題もありましたが、ホテルではすでに Uber Pick-up & Drop-off というポストがちゃんと車寄せにありました。Lyft というコンペティターも生まれたようです。すでにレストランのテイクアウトを運ぶUber・イーツなども始まり、いずれ物流への応用も始まるでしょう。自動車の販売にも影響があるかもしれません。社会、経済、産業の構造に大きな変化を感じさせる体験でした。



（この記事は投資手帖 2018 年 6 月号に寄稿したものに加筆修正したものです）



ストロングキャピタルマネジメント社 (米国) の債券運用部門責任者兼エコノミスト。シカゴ大学経済学部卒。ハリス銀行にアナリストとして入社して以来、株式・債券を中心に20年以上におよぶ運用経験を持つ。1991年にストロングキャピタル社入社。家族は15歳を頭に5人のお子さんと結婚18年目のジュリア夫人。読書、音楽鑑賞を愛し、お気に入りのスポーツはインドアサッカーとのこと。

経済効率化のシステムとしての長期投資

なぜ私たちは投資するのか？

日本と比べると、米国では投資アドバイザーの存在は随分目立っている。

私たち投資家は、必要とあればいつでもアドバイスをくれるさまざまな専門家たちに囲まれている。彼らはファイナンシャルプランナーであり、経済記事の記者であり、投資アドバイザーであり、銀行員であり、あるいは、「投資の神様」であったりする。

何を買うべきか、そして何を売るべきか、さまざまなアドバイスをしてくれる。相場が好調なときには、それらのアドバイスには、儲ける（しかも短期間に）秘訣が溢れている。相場が悪い時には、今は我慢の時だと聞かされる。

これらのアドバイスの多くは、決して悪くはない。ただ、この記事のテーマは長期投資ということなので、良い相場、悪い相場という雑音を離れて、原点に返って投資について考えてみよう。

たとえば、「何のために投資するのか？」。

——この疑問は、表面的に見ればとても初歩的な質問に見える。人々が投資をするのは、それによってお金を殖やし、将来の資金の必要に応えるためだ。特に引退の後の生活のため、といったように。しかしこの疑問に対する本当の答えは、見かけ以上に複雑なものだ。

投資とは、自由な市場主義経済にとって必要不可欠なものだ。さまざまな経済活動の中では、投資が生産性を押し上げ、人々の生活水準を上昇させる。経済学者のシュンペーターは、「創造的破壊」という言葉を使った。それは、新しい製品、サービス、あるいは新しいビジネスのやり方が、古くて役に立たなくなったものにとって代わるプロセスを意味している。投資とは、効率的な資本の使い方を求めるもので、「創造的破壊」を推し進めるエンジンのような

ものである。

資金が効率よく使われるように投資されれば、生産性の向上を通じて、社会全体にその恩恵が及ぶようになる。

このように考えてみると、投資家の投資行動は、個人にとって有用なだけでなく、社会全体に役に立つものでもあることがわかる。それは、投資を通じて、個人と社会が共生的な関係を持つともいうことができる。

投資とはアイディアの競争

崩壊してしまったソビエト連邦のように、計画経済の中においては、投資の決定は官僚と政治家によって行われる。そこでは、専門家たちが集まって、どのようなモノやサービスが必要になるかという予測が行われるのであろう。その予測が、官僚に伝えられ、実際にどの製品やサービスに投資が行われるか決定される。

たとえば、「食料がもっと必要だ」と専門家たちが言ったとする。すると「そのためにはもっとトラクターが必要だ」と、農業部門担当の官僚たちは財務部門に資金の要請をし、トラクター工場の建設を進めるべきだということになるかもしれない。

やがてトラクターは増産され、全国の農場に送り出される。もしトラクター不足が本当に問題の原因であれば、実際に農業生産は増加するだろう。

しかし、もし問題の根本的な原因がトラクターの不足ではなく、たとえば雨不足による旱魃^{かんばつ}だったとしたら、トラクターの増産は資源（投資）の無駄遣いで、「不良投資」とでも呼ぶべきものになる。

その場合は資金を、たとえば灌漑技術の導入や旱魃^{かんばつ}に強い品種改良などに向けることがよりよい投資ということになるだろう。

はたして、官僚や専門家たちはこの事態を正しく

判断するであろうか。あるいは、効果が上がらないにもかかわらず、トラクターのさらなる増産に踏み込んでしまう事はないだろうか？ 状況によっては、不良投資によってこの国の農業生産がさらに悪化し、このことは官僚たちが過ちを認め、正しい政策に転換するまで続いてしまうだろう。

一方、市場経済の中では、トラクターが増産されるかどうかは、多くの投資家たちの行動によって結論が出される。

「トラクターメーカーに投資するか」「灌漑技術に長けた会社に投資するか」、あるいは「種苗会社に投資するか」、個々の投資家は自分の判断によって決定する。ただしそれらに行われた投資が全体として、農業増産のためにこれ以上ないほどの最適な配分でなされるという事は残念ながらないだろう。

たとえば、投資家たちはあまりにも多くの資金を灌漑技術の会社に投資して、ハイブリッドの種子を生産する会社を無視してしまうかもしれない。

しかし市場経済の素晴らしいところは、投資収益を通じて、常にフィードバックが働いている事だ。投資家たちはやがて、「高い収益を得たい」という動機から、どの会社に投資されるべきかという情報を手に入れる。低い収益や、マイナスの収益は、そこに投資が行われるべきでない事を教えてくれる。

簡単にいえば、投資収益とは、社会全体の繁栄のために資本がどう投資されるべきかを教えてくれる道具である（ここで特筆すべきなのは、このシステムには、透明性と正直さが欠かせないという事だ）。

たとえばある会社が、株価を押し上げるために、会計を偽り利益を嵩上げしたりすれば、それは間違った結論、すなわち不良投資を引き起こす。

ここ数年の間に米国で目立った事例だが、これはまさに正しい会計処理の大切さを示すものだ）。

絶え間ない修正メカニズムとしての資本主義

もちろん、金融市場は完全なものではない。

投資に間違いはつき物である。誰にも将来を完全に見通す事などできないのだから。多くの投資家たちが、結果的に間違った事業に投資する事も大いにありうる。

とはいえ、市場経済の優れた点は、それが完全無欠なものだということではなく、常に正しい方向に修

正を続けるという性質にあるのだ。

間違った投資を続ける投資家は、結局投資資金も縮小させてしまう。正しい投資を続ける投資家の投資資金は増大する。市場はすべての投資家に、常に投資配分を正しい方向に修正するようにシグナルを送り続けているのである。

以上の事から理解できるのは、成功する投資とは、社会にとって有用な活動だという事だ。

幾多の投資家による独立した投資判断が、投資収益という基準によって導かれ、結果として最も社会にとって有用な事業に資金を投下する事になる。

これが、経済学者アダムスミスが説いた、「神の手」の概念である。

一般に「神の手」は、製造業やサービスの需給の話として理解されている。つまり、「(他の条件が一定として) 価格が上がれば、供給が増え、需要は減退する」「価格が下がれば、需要が増え、供給は減少する」ということである。

市場経済の中では、需要と供給のバランスをとるための絶え間ない修正の中で、最適なレベルを求めようとしたダイナミックな動きが続いていくが、同じ事が投資の世界でも当てはまる。

先ほど述べたように、投資の世界でも常に市場のリターンという情報を通じて、投資家の行動は修正される。短期的には、人々は多くの間違いを犯し、不良な投資も行われるだろうが、長期的に見れば、自由主義市場経済の中では、社会にとって利益をもたらす投資が生き残り、さらに次の投資へとつながっていくのである。

ここで大事ななのは、社会のより多くの人たちが市場経済プロセスに参加していくことである。

ソビエト連邦の計画経済のように、一握りの人々によって投資の決定が行われた場合、長期的に見れば、社会にとって望ましい投資の決定がなされとは限らない。むしろ多くの人たちが、市場経済の中に投資家として参加していくことによって、市場の自己修正の力ともなるし、市場そのもののダイナミズムも生まれてくる。

時には、投資することの社会的意味を考えてはどうか？

ご存知のように、米国では多くの一般の人々が、投資信託などを通じて市場に参加している。

1990年代から2000年にかけての株式ブームの中で、人々は10%を超える年間収益率に慣れっこになってしまった。今でも私が投資セミナーなどで講演する時には、質疑の中で「いつ、あの頃の素晴らしい収益の世界に戻れるのか?」といった質問に出くわすことがある。

そこで私は「あのような高収益を株式投資が生み出すのは特別な時代で、今はそんな時代ではありま

せんよ」と答えるのだが、逆にいえば私たち投資家は、すでに述べたように、自己修正を続ける市場経済の一部として、たまたま今の局面で市場にかかわっているのに過ぎないのである。

冒頭にお話したように、時には「今の相場がどうか」という思いを離れて、投資することの社会的な意味を考えてみるのも大事なことではないかと思うが、いかがであろうか?

自由を愛する中西部気質のエコノミスト、ジェイ・ミュラー

村山甲三郎

喧噪を離れ、 のどかな田園地帯で経済のうねりを感じる

今回、長期投資について米国流の考えを示してくれたジェイ・ミュラーは、ストロングキャピタルマネジメント社（米国中西部・ウィスコンシン州ミルウォーキー）に勤務する債券運用部門の責任者であり、同時にエコノミストでもある。

たまたま出張で来日した折に、「長期投資についての考え方を聞きたい」と依頼すると、二つ返事で引き受けてくれた。

ストロングキャピタル社は、1974年創立のまだ若い運用会社である。ゴルフコースを思わせる広大な敷地に、フランク・ロイド・ライト風のゆったりした本社ビルが美しい森に囲まれ、社屋の中では650人ほどの社員が静かに働いている。



豊かな自然環境に囲まれた、ストロングキャピタルマネジメント社の社屋

株式や債券の市場のあるニューヨークやシカゴなどの大都会からは遠く離れているが、市場の情報は鳥たちのさえずりしか聞こえないのどかなビルの中を駆け巡っている。

ただし大都会と違って、ここではゆったりと喧騒を離れて、市場や経済がどのようなうねりをもって大きな流れをつくっているのか、一步引いて考えることのできる環境がある。広々とした3階建てのビルは、明るいガラス窓を通して光が溢れ、オープンスペースを基本とした社内には、会議のための小さな部屋を含め、視線をさえぎる壁は存在

しない。

会長以下すべての社員は低い間仕切りの開放的なオフィスで情報を共有し、議論する。官僚的な手続きや、意思疎通の難しさはここでは無縁である。

長期投資の視点ということでは、この本社ビルこそ、その象徴のような存在である。

この広大なビルが建てられたのは、1987年。あのブラックマンデーの株式市場大暴落の年だ。100年先を考えて設計されたとはいえ、当時の社員がまだ60人だったことから地元の人々にあきられたそう。

ミルウォーキーは、人口60万人、決して大都会ではない。しかしこの田園地帯の中西部各州には、資産運用会社はストロングキャピタル社を含めてかなり存在する。それぞれユニークな投資方針を誇る会社が多いが、人口の少ないゆったりした地域に、激しい市場を相手にする運用会社が多く存在するのは、なかなか興味深い現象だ。

歴史観や社会観に立つエコノミスト

ジェイ・ミュラーはオハイオ州出身で、家族は奥さんと二男三女の6人。自由を何よりも愛する、典型的な米国中西部人だ。

エコノミストとして彼のユニークな点は、常に歴史や広い社会的な要素を、市場分析の中に織り込もうとしている点だ。

単にマクロ経済の指標や、数量の分析にのみ頼るのではなく、歴史や社会のダイナミズムといったものをバックグラウンドとして、現在および将来の経済の動きを読もうとしているという評価が高い。

今回、長期投資の観点からコメントをもらったが、エコノミストらしく基本に戻って考えようとする視点はしっかりしていると好感を持った。

また、運用ビジネスの世界の激しい競争の中に身を置いてきただけに、市場経済の厳しさを感じると同時に、社会全体にとっての、市場経済のもたらすプラスの面を積極的にとらえる考え方には深く同感した。（むらやま こうざぶろう）

<モデルポートフォリオ:2018年5月末の運用状況>

単位: %

		トータルリターン				リスク	1万円ずつ積み立てた場合の 投資額に対する騰落率			
		1ヵ月	1年	5年 (年率)	10年 (年率)	10年 (年率)	1年 12万円	5年 60万円	10年 120万円	2000年1月 ~ 221万円
4資産型	積極型	-0.82	9.57	9.84	5.19	16.74	2.28	24.01	75.60	93.39
	成長型	-0.93	6.14	7.13	4.37	11.93	1.05	15.74	51.08	70.60
	安定型	-1.05	2.74	4.35	3.33	7.61	-0.18	7.82	29.56	48.32
2資産型	積極型	-0.79	8.40	9.41	5.35	18.65	1.53	22.19	76.27	104.48
	成長型	-1.21	5.33	6.87	4.45	13.94	0.22	14.25	52.38	79.28
	安定型	-1.64	2.28	4.28	3.31	9.85	-1.11	6.68	31.39	54.70

* 投資にかかるコストは控除していない。積み立ては、税引き前分配金再投資。ポートフォリオは毎月リバランスをしたものとする。
積み立ては計算月数分を運用したものとする。例えば1年の場合は2017年5月末に1万円投資資金を積み立て始め、
2018年4月末の投資資金までとする(2018年5月末積み立て分は運用期間がないため含めていない)。

出所: イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがMorningstar Directにより作成。MorningstarDirectについてのお問い合わせは
「投信まとなび」のお問い合わせメール(<https://www.matonavi.jp/inquiry>)にてイボットソン・アソシエイツ・ジャパンまで。

ポートフォリオの資産配分比率(外貨建て資産は円換算ベース)

		国内株式: TOPIX	外国株式: MSCI KOKUSAI	国内債券: NOMURA- BPI (総合)	外国債券: Citi WGBI (除く日本)
4資産型	積極型	40%	40%	10%	10%
	成長型	25%	25%	25%	25%
	安定型	10%	10%	40%	40%
2資産型		世界株式: MSCI ACWI (含む日本)		世界債券: Citi WGBI (含む日本)	
	積極型	80%		20%	
	成長型	50%		50%	
	安定型	20%		80%	

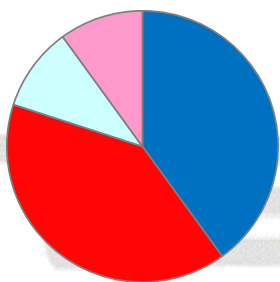
ポートフォリオは「インベストラيف」が参考のために考案した資産配分に基づき、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがデータを算出しています。
特定の資産配分による投資の推奨を行うものではありません。

「長期投資仲間」通信『インベストラيف』のその他の記事はこちらからご覧ください。
<http://www.investlife.jp/>

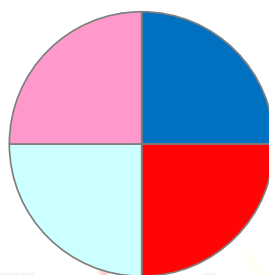
4資産型

- 国内株式:
TOPIX
- 外国株式:
MSCI KOKUSAI
- 国内債券:
NOMURA-BPI
(総合)
- 外国債券:
Citi WGBI
(除く日本)

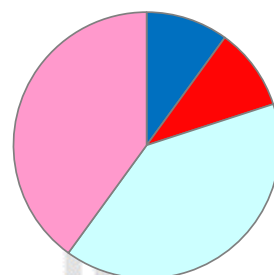
積極型



成長型



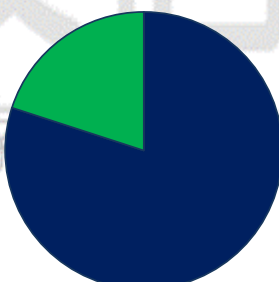
安定型



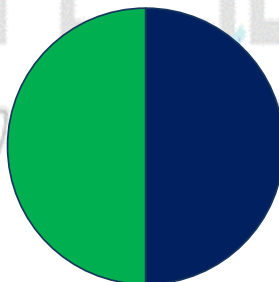
2資産型

- 世界株式:
MSCI ACWI
(含む日本)
- 世界債券:
Citi WGBI
(含む日本)

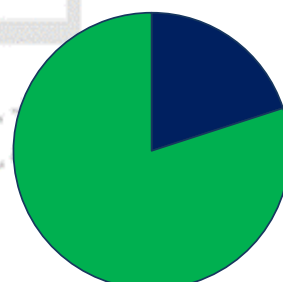
積極型



成長型



安定型



当資料は「インベストラ이프」のために、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがデータを算出、作成しています。特定の投資信託による投資の推奨を行うものではありません。
※ファンド名をクリックすると「投信まとなび」でそのファンドを見ることができます。

「長期投資仲間」通信『インベストラ이프』の
その他の記事はこちらからご覧ください。
<http://www.investlife.jp/>

<直販ファンド:2018年5月末の運用状況>

運用会社名	ファンド名	トータルリターン				リスク	1万円ずつ積み立てた場合の 投資額に対する騰落率				1万円ずつ積み立てた場合の 月末資産額				2018年5月末		2018年 2月末	2018年 5月中
		1ヵ月	1年	5年 (年率)	10年 (年率)		1年 12万円	5年 60万円	10年 120万円	2000年1月～ 221万円	1年 12万円	5年 60万円	10年 120万円	2000年1月～ 221万円	純資産 (億円)	基準価額 (円)	(前回掲載時) 基準価額 (円)	推計資金 純流入額 (億円)
さわかみ投信	さわかみファンド	-2.01	15.07	11.27	5.03	20.32	3.40	30.07	78.22	137.17	12.41	78.04	213.86	431.65	3,211.2	26,251	26,767	-6.51
セゾン投信	セゾン・バンガード・ グローバルバランスファンド	-0.84	3.88	5.84	3.73	13.57	-0.52	11.68	46.10	-	11.94	67.01	175.32	-	1,574.6	14,117	14,295	13.20
レオス・ キャピタルワークス	ひふみ投信	1.09	24.97	21.12	-	-	9.92	69.27	-	-	13.19	101.56	-	-	1,425.8	52,069	51,377	20.48
セゾン投信	セゾン 資産形成の達人ファンド	1.30	11.18	13.23	9.38	20.00	3.92	34.71	118.84	-	12.47	80.83	262.61	-	607.7	20,760	20,873	9.73
鎌倉投信	結い 2101	0.22	12.57	7.28	-	-	4.69	23.13	-	-	12.56	73.88	-	-	360.1	19,459	19,503	5.03
コモンズ投信	コモンズ30ファンド	0.72	18.57	12.15	-	-	7.40	40.32	-	-	12.89	84.19	-	-	139.8	30,173	29,657	2.93
ありがとう投信	ありがとうファンド	-0.62	5.77	8.96	5.25	17.03	-0.26	21.76	69.85	-	11.97	73.06	203.81	-	126.5	18,422	18,888	0.07
クローバー・アセット	コドモ ファンド	1.01	18.69	13.36	-	-	6.20	42.69	-	-	12.74	85.61	-	-	74.7	18,522	18,668	0.14
ユニオン投信	ユニオンファンド	-2.99	2.35	6.89	-	-	-3.50	16.38	-	-	11.58	69.83	-	-	60.5	24,197	25,860	0.57
コモンズ投信	ザ・2020ビジョン	3.04	25.42	-	-	-	11.25	-	-	-	13.35	-	-	-	45.7	16,650	16,509	-1.62
クローバー・アセット	浪花おふくろファンド	-0.27	13.39	12.48	7.56	17.03	3.92	35.23	91.72	-	12.47	81.14	230.06	-	12.6	21,211	21,497	0.07
クローバー・アセット	らくちんファンド	-0.16	10.44	10.51	5.59	14.93	2.81	27.28	69.55	-	12.34	76.37	203.46	-	9.3	17,271	17,483	0.09
クローバー・アセット	かいたくファンド	0.55	10.23	11.81	7.17	13.79	3.20	29.07	79.48	-	12.38	77.44	215.38	-	7.0	20,226	20,259	-0.32

*積み立ては税引き前分配金再投資、計算月数分を運用したものとします。例えば1年の場合は2017年5月末に1万円で積み立てを開始し、2018年4月末投資分までの5月末における運用成果とする(5月の積み立て額は入れない)。
出所: MorningstarDirectのデータを用いてイボットソン・アソシエイツ・ジャパンが作成。MorningstarDirectについてのお問い合わせは「投信まとなび」のお問い合わせメール(<https://www.matonavi.jp/inquiry>)にてお気軽にご送信ください。